

二十鼠の銀の音譜

月 韻

雁の糞、墓石に白く

ほろほろこ

古里の音信ありやなしや

郭註莊子

高 橋 輝 雄

傀儡の身の支離疏があゆみふりかへりあざけり得ねば頸かしけ傍つ

人間世

烏玉の黒牛裂くミ手の双ひらめきながれ月冨ゆるべし 養生主

たまきはる精神來古は馬になりこれぞたぬしミ子輿はたのしむ 大宗師

白砂に打ち据えし石のなすちから迫まれるゆゑに晝のしづけさ 相阿彌庭

ころころにころける鐵の火を見ればいくさをなさむころかなしき 舞鶴軍港

アフオムリズム・5

常識

それは自然をすら功蹟の一つに數へあける

濁悪

早小女は美しいだがしかし彼女はなぜそんなに後にばかり氣をこられるのであらう

知識の樽

知識の樽はそれ自身酔ふことを知らないだからニイチエは嘲笑する

小乗

自殺者は肯定にしろ否定にしろ神の國の最大の關心者であるけれどその最大は彼自身の最大であつた

錨

グラツパンの五つのカギに引掛つてゐる五人のその十の足が地上に觸れたときそれを籠絡と言ふ

インターネット公開許諾のない作品には墨塗り処理を施しています。